

⑦加藤 恭子 議員

## ●風しん対策について

**問** 風しんが5年ぶりに流行している。妊娠初期の女性が罹ると胎児がウイルスに感染し「先天性風しん症候群」を発症する恐れがある。国は新たな対策を発表したが、その内容と、本市の対応は。

**福祉部長** 国における新たな対応については、特に感染のリスクが高いとされる39歳から56歳の男性を対象に、来春より2022年3月末までの3年間、免疫の有無を調べる抗体検査及びワクチン接種を原則無料にする方針を発表した。本市としては、その動向を踏まえ、接種が必要となる対象者に対し、適切な検査及び接種を受けていただくよう、周知をしていく。



⑧海野 富男 議員

## ●本市の稲作生産調整について



稲刈り風景（柳沢）

**問** 本年度産米予想収穫量は、国が示す適正生産量を下回ることであり、増産意欲が高まるとみられる。本市の稲作の需給調整の現状と課題および対応策について伺う。

**経済環境部長** 米の直接支払交付金の廃止に伴い、県が示した生産数量目標があるが、本市域では超過している。

県や農協など関係機関と連携し、生産者が生産調整に積極的に取り組むよう、地区説明会や戸別訪問などを行い、本制度の必要性について周知を図っていく。また、複数ある交付金制度を活用して、飼料用米などへの転換を推進し、主食用米の生産調整に取り組んでいく。

## ●35人以下人数学級について

**問** 本市の小中学校では、ティーム・ティーチングと教員の配置を工夫し、一学級の児童生徒の人数を35人以下にしている。少人数教育の効果と課題および課題への対応策について伺う。

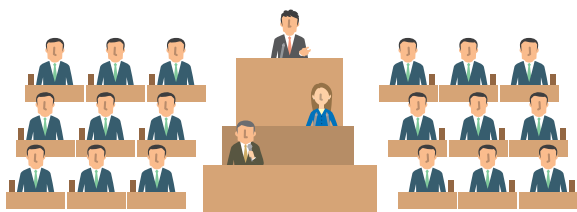
**教育長** 現在、小中学校では、教科において、学級全体での学習に加えて、学級を分けた少人数による指導を取り入れている。課題としては、少人数指導の学習のあり方を研究することや指導体制を整えることが挙げられる。

今後とも少人数による指導と学級全体による指導を効果的に組み合わせながら、児童生徒一人ひとりに対して、きめ細やかな指導の充実を図っていく。



⑨樋之口 英嗣 議員

## ●二元代表制の意義について



**問** 日本の地方自治体では憲法93条に書かれているように二元代表制をとるようになっていく。市長の考える二元代表制の意義を伺う。

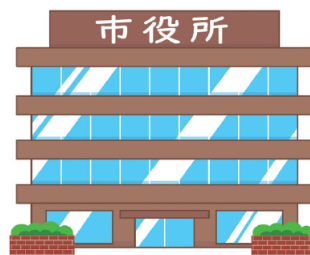
**市長** 市議会と市長は、市民から直接選挙によって選出された市民の代表である。議決機関である市議会と執行機関の長である市長が、それぞれの職責を全うすることで公正で民主的な市政運営を行うものであると考えている。

## ●観光産業などについて

**問** 観光は、わくわく感をいかに生み出し、心地よさをいかに続けるかである。その結果リピーターを増やすことにつながる。キーワードはエキサイティングとおもてなしと思うが市長の考えを伺う。

**市長** 私は3つのキーワード「おもてなし」「非日常」「民間の力」をもとに観光産業を推進していきたいと考えている。「民間の力」を積極的に活用しながら本市の魅力をしつかり発信し、初めて訪れる旅行者を温かい「おもてなし」で迎え入れ、本市ならではの「非日常」を体験していただくことで、ひたひたなか市にまた来たいと思うリピーターを増やす施策を検討していく。

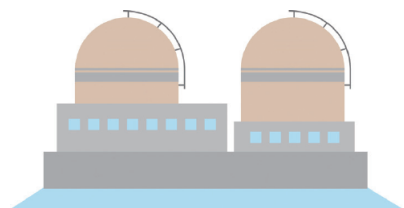




### ● 市政運営・経済状況の分析について

**問** 地方財政が厳しい中、予算編成にあたり、経済の状況をどのように分析しているのか。また、市税のうち個人市民税、法人市民税をどのように見込んでいるのか伺う。

**総務部長** 内閣府や日銀の報告では、通商問題などの不安定な海外情勢を受け、日本経済においても当面の間不安定な情勢が続くと見込まれている。また、消費税率引き上げなどにより、地域経済の動向の見極めはなかなか困難な状況である。市税の見込みについては、今後公表される地方財政計画や税制改革大綱などにより国の動向を注視しながら適切に見込んでいきたい。



### ● 東海第二原発の再稼働について

**問** 日本原電は再稼働に向けて準備している。実効性ある避難計画が困難を極めている。このような状況のもと、市民の安全安心を守るためどのように対応していくのか、基本的な考えを伺う。

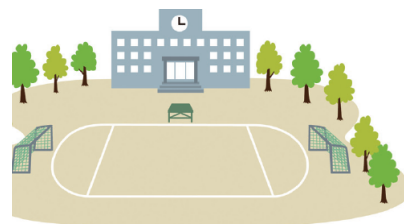
**市長** 11月24日、首長懇談会を開催し、日本原電に対し「なし崩しの工事を進めないこと」を強く求め、日本原電としての責任ある対応として説明することを強く申し入れた。東海第二原発の再稼働問題は、市民の安全・生活を最優先に極めて慎重に判断するべき問題であり、実効性のある避難計画を含め、市民の安全が確保されない限り再稼働はできないものと認識している。



### ● まちづくり市民会議について

**問** ひたちなか市自立と協働のまちづくり基本条例に基づき設置された「市民会議」において議論が進んでいるが、提出された意見や要望への対応と今後の課題について伺う。

**市民生活部長** 各コミュニティ市民会議では、地域が抱える身近な課題の解決に向け協議を重ねているところであり、地域と行政とで共に解決にあたる課題については、提言書が提出されている。提出された案件については、関係各課連携のもと提案に対する支援方法などを協議検討している。地域らしさを尊重しつつ、より自立的・継続的にを行うことが課題となっている。



### ● 学校体育施設の開放について

**問** 運動場利用者のため、未整備校への屋外トイレ設置の方針について、また、小学校体育館の平日利用開始時間に関して、午後5時から放課後へと変更願えないか伺う。

**教育次長** 屋外トイレ未整備校については、学校からの要望に応じて、プール管理棟のトイレを運動場での活動時においても利用できるように、来年度以降改修する予定となっている。体育館などの学校開放施設が安全に利用できるかどうかの安全確認には一定の時間が必要であり、平日における利用開始時間を早めることについては、現時点では慎重に判断していく必要がある。



整備中の都市計画道路 (佐野図書館付近)

### ● 佐和駅の利便性向上および周辺の整備

**問** 東口駅前広場の整備とともに、狭隘な道路の解消や歩道の整備、街灯・防犯灯の設置など複合的な観点に立って周辺環境を整えていくことが求められる。今後の整備計画および取り組みの方向性について伺う。

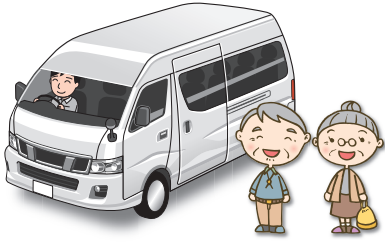
**都市整備部長** 東西自由通路の供用により、誰もが安全で円滑に移動できるバリアフリー環境整備が重要であるため、各改良工事を進めていく。勝田佐野線は暫定的に歩道整備や段差の解消を年次的に進める。駅周辺の夜間安全対策として、東口広場や都市計画道路の主要交差点への道路照明の設置をはじめ、自転車駐車場などへ安心して通行できる環境整備に取り組んでいく。

◀ 次ページに続く

### ● 利便性の高い公共交通網の構築

**問** 高齢者などの実生活を支える交通体系の構築を改めて検討すべき時期であり、多角的な検討を重ね、より良い交通網の構築が必要と考える。市民の生活の足をどのような方針のもと確保していくのかを伺う。

**企画部長** 高齢化などによりスマイルあおぞらバスなどの公共交通の利用が困難となっている方の増加を認識している。デマンド型乗合いタクシーの導入についても最新の社会情勢を踏まえ、運行方法に関する事例研究など継続する必要があると考えている。今後は、庁内関係部署が連携を図り、公共交通の利用が困難な方々への支援のあり方を検討していきたい。



### ● ホームスタート事業、市長の考えは

**問** 市外からの転入者も多い本市の状況を踏まえ、慣れない土地での孤独な子育てとならないような子育て中のお母さんに対する当事業の取り組みは重要であると考えている。市長の考えを伺う。

**市長** 当事業は、本市を拠点に子育て支援活動を行うNPO法人と市との協働事業として本年4月から取り組んでいる。事業を開始して間もないことから訪問ボランティアである「ホームビジター」の養成や確保など、さまざまな面で手探りの中で進めている状況であるが、今後も事業の更なる充実に取り組みながら、子育て世代に選ばれるまちづくりを進めていきたいと考えている。

#### 用語解説

#### ※ホームスタート事業

子育て支援家庭訪問（ホームスタート）事業とは、未就学児のいる家庭に地域の子育て経験者である「ホームビジター」が無償で定期的に訪問するものをいう。

### ● 新中央図書館の立地、市長の考えは

**問** 市民のさまざまな声を反映させたゆとりある空間という点はもちろん、立地地域の賑わいの創出の観点や駅からのアクセス面など考慮すべき要素は多い。現行案以外に検討すべき余地はあるのではないかと。

**市長** 新中央図書館は、あらゆる世代のさまざまな過ごし方に応えられる、市民に親しまれ、まちのシンボルとして自慢できるなど、本市の文化拠点にふさわしいゆとりある空間を整備したいと考えている。建設地の決定に向けて、アクセス性や利便性、中心市街地における回遊性や賑わいの創出、他の公共施設との機能の相乗効果、整備コストなどを総合的に検討していく。



### ● 道の駅について

**問** 地元産業の発展・魅力の発信のため、交流人口のさらなる増加と利便性の向上のためにも本市に道の駅が必要であると考える。大谷市長は、「道の駅」は必要であると考えているか伺う。

**市長** 「道の駅」の整備については、本市の特産・物産品のPRと観光客の回遊性向上及び交流人口の拡大、さらには6次産業による地域への経済波及効果が期待されるが、経営主体の問題や民間事業者との販売品の競合などの課題もある。

今後においては、第2期観光振興計画に基づき、これまでの調査結果などを踏まえながら、慎重に調査を進めていく。



### ● 干し芋について

**問** 干し芋産業に関わる方々の加工残渣に対する悩みについて、どのように考えているのか。干し芋の販売促進、販路拡大などの経営力向上に向けた取組みとは具体的にどのようなことか。

**経済環境部長** 干し芋残渣の処理については、市でも、日本一の干し芋産地として大きな課題であると考えており、関係機関と連携を図りながら、堆肥化を含めた対策について引き続き取り組んでいく。経営力向上に向けた取り組みについては、商品イメージを高めるため、商品パッケージや贈答品としての商品開発をサポートするための研修会などを開催していきたい。



干し芋づくり風景（長砂）



12月定例会で採決に先立ち、次のような討論が行われました。

### 議案に対する討論

#### ●反対

ひたちなか市職員の給与に関する条例等の一部を改正する条例制定について、特別職の期末手当改定には反対であり、不安定な生活を送る多くの住民感情に配慮し、引き上げは自粛し、据え置くべきと考える。議員の期末手当の引き上げも、人勸の影響を受けない以上、反対討論とする。

## 人事

### 固定資産評価審査委員会委員の選任同意

大貫 勅俊氏

### 人権擁護委員の候補者推薦同意

茅野 春水氏、打越 慎一氏、大内 一幸氏

### ひたちなか市選挙管理委員および補充員の選出

選挙管理委員 卯野 福弥氏、清水八洲雄氏、  
飛田 均氏、平野 孝子氏  
委員補充員 橋本 孝氏、沼田 暁美氏、  
黒澤 敏江氏、鹿志村岩根氏

## 委員会構成の変更

本市議会の常任委員会中、予算委員会および決算委員会の構成が次のとおり変更となりました。(平成30年12月3日現在)

常任委員会	常任委員名	委員定数
予算委員会	○樋之口 英嗣 所 宇田 三瓶 三瓶 武	12人
	○雨澤 正 岩本 尚一 鈴木 大内 聖仁	
決算委員会	○薄井 宏安 弓削 仁一 加藤 恭 打越 浩	12人
	○海野 富男 北原 祐二 深谷 寿 井坂 章	

◎委員長 ○副委員長

## 請願・陳情

請願と陳情は審査の結果、次のとおりとなりました。

### 採択となったもの

▽教育予算の拡充を求めることについて

### 継続審査となったもの

- ▽東海第二原発再稼働反対の決議を求めることについて
- ▽東海第二原子力発電所の運転20年延長・再稼働に関することについて
- ▽「東海第二原子力発電所の20年延長運転を認めない」意見書の提出を求めることについて
- ▽東海第二原子力発電所の運転20年延長・再稼働に関することについて
- ▽議会として、「医師養成定員を減らす政府方針の見直しを求める意見書」を国に提出することについて

## 意見書

「教育予算の拡充を求めることについて」意見書を内閣総理大臣ほか6機関へ提出しました。

### 措置内容

- 1 きめ細かな教育の実現のために、計画的な教職員定数改善により少人数学級を推進すること。
- 2 教育の機会均等と水準の維持向上をはかるため、義務教育費国庫負担制度を堅持すること。

## 産業の振興と観光の推進 調査特別委員会調査報告

### (1) 賑わいの創出による観光振興に関することについて

市内各所の観光資源の発掘、磨き上げなどを進め、地域の活性化、観光の振興につなげていくためには、交流行事の創出と交流人口の増加を促進することが必要である。また、過去の観光施策の検証や先進事例から必要な取り組みや要素を学び、それを関係する部署で横のつながりをもって共有していくことも重要である。

各種イベントについては、ひたちなか祭りや産業交流フェアといった催しものが開催され、地域

の賑わいの創出とともにひたちなか市をPRするよい機会となっている。その他にもドウナイトマーケットやT.A・M.A・R・B.Aが開催されていることから、それらを交流人口の増加に一層活用することも必要である。

そこで、交流人口拡大の一つの例としてラグビー合宿の菅平のようにならぶ地区をスポーツ合宿地の憧れの場所として県内外に認識される取り組みを図りたい。また、スポーツ合宿以外にも、引き続きロック・イン・ジャパン開催都市として「音楽のまち」で聖地を目指し、県内外者との交流を活発化させ、スポーツや音楽を通じた交流の盛んな都市で、かつ持続可能な賑わいを有するまちづくりに取り組むべきである。

### (2) ひたちなか地区の魅力発信に関することについて

市内を走行するひたちなか海浜鉄道湊線沿線には、買い物客で賑わうお洒やかな市場や史跡名勝などの観光資源が数多く存在する。これら観光集客地を結びつける公共交通体系が十分とは言えないことから、来訪者の移動は自動車利用に依存しているのが実態である。公共交通体系が改善されれば沿線はもとよりひたちなか地区としての魅力の向上につながることを期待できる。また、ひたちなか海浜鉄道の延伸とその終着駅予定地の駅前広場整備は、より良い公共交通体系の構築と、観光資源などを有機的に結び付けることによ

る来訪者の回遊性向上、交流人口の増加につながり、ひたちなか海浜鉄道湊線自体の活性化や魅力向上に寄与することも期待できる。

### (3) 企業誘致に関することについて

本市は、北関東自動車道をはじめとする広域幹線道路網や茨城港常陸那珂港などの地理的優位性を生かして企業立地を推進し、雇用の場の創出や拡大を図っている。また、ひたちなかテクノセンターをはじめとする産業支援機関と連携し、ベンチャー企業の進出支援、環境づくりに努めるとともに、市内や近隣自治体に立地する高等学校、大学などと連携して地元雇用を促進し、若年層の定住を促進し、職住近接のまちづくりをさらに推進することが必要である。さらに、これまで以上に産業活性化コーディネーターの活動を充実させ、地元企業育成にまい進すべき時期である。民間企業の誘致と同様に、公的機関や各種学校などの誘致も地域経済に大きなメリットを与える意味では選択肢の一つとして考慮していくべきである。

### おわりに

本市においては、「ひたちなか市第3次総合計画」や「ひたちなか市まち・ひと・しごと創生総合戦略」、「ひたちなか市第2期観光振興計画」など各計画を本委員会の意見を踏まえながら着実に推進するとともに、定期的に議会へ成果報告を行い、そして今回の提言などを市政運営に反映されるよう期待する。



繋がりを大切に

中根 横山 寛子さん

長男が先日十八歳となり四男も来年小学六年生です。四人の息子が小さい頃は気持ちに余裕がなく、周りに目を向ける事も少な

かったと思います。心に限界を感じる中参加した子育て支援やボランティア活動で出会った方々との触れ合いで気持ちの変化を感じることができました。これからも頂いた縁を続けていけるように、そして子供たちの成長を見守りながら視野を広げたいと思っています。



### 常任委員会閉会中活動報告

#### 総務生活委員会

○10月25日  
東海第二発電所の現地調査を行い、担当者より説明を受け質疑を行いました。

#### 文教福祉委員会

○10月18日  
磯崎町地内において、小中一貫校建設予定地の現地調査を行い、執行部から説明を受け質疑を行いました。

○11月22日  
中根、稲田地内において、新設保育園2カ所の現地調査を行い、保育園職員から説明を受け質疑を行いました。

#### 経済建設委員会

○10月29日  
早戸川（おさえん川）の水質について執行部から説明を受け、質疑および現地調査を行いました。

○11月29日  
高野小松原線の整備状況について執行部から説明を受け、質疑および現地調査を行いました。

笑顔が笑顔を呼ぶ街に  
市毛 櫻村 悠子さん

子供たちの笑顔が笑顔を呼ぶ。ご近所のおばあちゃん、学校のお友達や先生、スーパ―に立ち寄れば皆さんが話しかけて下さり、立ち止まり遊んでくれます。不安を抱えた子育てに優しい手を差し伸べてくれる街の人々。私もこの街に育ち、子供たちも優しいエネルギーに包まれています。



子どもたちが笑う、私たちも笑う、おじいちゃんおばあちゃんも笑う、更に笑顔が広がる街になりますように。

### 次回3月定例会

日	月	火	水	木	金	土
24	25	26	27 本会議 (開会)	28 本会議 (午後1時開議)	1	2
3	4 (議案調査)	5 (議案調査)	6 (議案調査)	7 本会議 (代表質問)	8 本会議 (代表質問、一般質問)	9
10	11 本会議 (議案調査)	12 本会議 (予備日)	13 予算委員会	14 予算委員会	15 予算委員会	16
17	18 予算委員会	19 予算委員会 (予備日)	20 3常任委員会	21	22 (事務整理)	23
24	25 本会議 (閉会)	26	27	28	29	30
31						

※諸願・陳情締切り:2月19日 正午

議事を傍聴しませんか?

詳しくは議会事務局へお問い合わせください。  
(273-0111 内線4211)

ひたちなか市議会/ひたちなか市公式ホームページ  
<https://www.city.hitachinaka.lg.jp/shisei/9728.html>

編集者  
手帳

2019年は、いよいよ、いきいき茨城ゆめ国体、いきいき茨城ゆめ大会が開催されます。参加する人、応援する人、お手伝いする人、関わり方はそれぞれありますが、この機会に大いに盛り上がるとともに、おもてなしの心で、色々な人と接することができれば良いと思います。市議会だよりは、昨年1月の100号を機にリニューアルをしました。今後も、市民の皆様のご意見を頂きながら、議会だよりやホームページなどにより、議会がさらに身近に感じて頂けるような広報活動に努めてまいります。…………… (岩本 尚之 記)